

令和6年2月15日（火）17:00

令和5年度 第3回学校評議会 議事録

【出席：谷、松岡、小川、三浦、山本、伊野、池田、下倉、下田、和田、木村、佐々木、仙波、須田】

1 校長挨拶（和田）

学校評価について資料にまとめてあるのでご意見をいただきたい。

3学期は、1年生スキー教室はほぼ無事に行えた。インフルエンザ等による学級閉鎖があったが、今は落ち着いてきた。合唱コンと卒業式が3月にある。

現2年生は7クラスだが来年度はギリギリ6クラスになる見通し。新1年生は236名を予定していて6クラスになる見通し。

2 学校の様子について

生活：・全体としては落ち着いている。

- ・2月3日（土）の小中交流会では育成会の力をいただき無事成功した。新入生を楽しく迎えられる。3学期は合唱コンクールや三年生を送る会など、学校行事が多くあり、生徒が主体的に取り組んでいる。
- ・頭髪のルールの見直しについて、髪を結ぶことのきまりを試験的に行い、変えていく予定。
- ・私服で登校する日を設ける企画を生徒会が検討している。

教務：・学級閉鎖があり時数の確保が課題であった。ICTの利活用については学校全体で進めることができている。

- ・次年度の計画について、
 - ①定期テストを廃止して、月1回の単元テストに移行する方向である。2～3日間で9教科の知識を短期間に詰め込むことを改善しようと考えている。次年度の取組について、どのように効果を測定していくか検討すべき課題がある状況。
 - ②授業のカットについて、7クラスある中で1教科当たりのクラス間の授業時数に凸凹が生じてしまう。次年度は授業のカットを45分授業に変更することで課題を解消しようと考えている。

進路：・この1年間、1年日野調べ、2年職業体験を中心に地域の力をいただきありがとうございます。次年度もさらに地域との交流が深まればと考えている。

- ・Aigrowという非認知能力を測定するツールを昨年度より使用しているが、校長の次年度の経営方針の基、さらなる活用に向けて課題に取り組んでいる。
- ・進学指導については、都立の出願の手続きがすべて終わり、140名の生徒が都立高校の入試に向かう状況である。

3 学校評価について（配布プリント、スライドで説明）

【木村より資料の説明】

○身体を育てる力の向上（運動する機会を増加させ、生徒の体を育てる力の育成を図る。）

生徒学校評価アンケート「運動を頑張り、体が強くなった。」という質問に対し、80.5%の生徒が「とてもそう思う」、「そう思う」と肯定的な回答した。部活動に参加して運動を頑張る生徒はもちろんのこと、「体育の授業へ関心をもち、自分から取り組んだ。」と授業アンケートで回答した生徒も85～93%いた。今年度はインフルエンザの流行で学校としての取り組みを行うことができなかったが、放課後に10分間走などを行い、運動部に入っていない生徒にも体力向上の機会を設けたい。

○学ぶ力の定着（校内研究による授業改善の推進を図る。）

生徒学校評価アンケート「授業の内容がよく分かる。」という質問に対し、生徒の84.1%が肯定的な回答をした。校内研修では、都から指導主事を招聘し、評価方法についての研修を行った。自己申告、テスト問題の事前提出・評価提出時の面談を行い質の向上に努めてきたが、教職員の取組指標には結果として現れなかった。昨年度までは、よく理解できていなかった評価方法などの理解が進むことにより、より高い目標を設定して教職員が授業や評価に取り組み、その目標に自分自身が及んでいないと感じていることも一因として考えられる。また、保護者に関しても評価など分かりづらい部分があったと考えられる。来年度は、定期テストを廃止する。これまでテストの点数を取ることに重きが置かれ、知識偏重の学習であったが、日頃の主体的に学習に取り組む態度の育成を充実させ、学習の定着を単元テスト毎に確認し、定着していない箇所明確にし、振り返って補充していくことで学力の定着が図れるようにしていく。併せて、保護者からのクレームをなくすようにしていく。

○学ぶ力の定着（自学自習の放課後復習教室や図書室等での自学自習のできる環境を整え、学ぶ力の向上を図る。）

生徒学校評価アンケート「自主的な学習に取り組み、学力が高まった。」という質問に対し、76.4%の生徒が肯定的な回答をした。自習教室を別室支援員や学生インターンを活用し、放課後、週4日間実施することができた。自習教室は、毎回生徒が利用していた。テスト1週間前は食堂で行い、満席になるほど多くの生徒が利用した。自習ができることが生徒に認知され、少しずつ利用が増えてきている。来年度も行い、さらに自主的に学習に取り組む雰囲気を作り上げたい。

○豊かな人間性の育成（運動会・合唱コンクール等の行事を充実し、所属感・連帯感を高める。）

生徒学校評価アンケート「運動会・合唱コンクール等の行事に参加し所属感・連帯感が高まった。」という質問に対し、91.8%の生徒が肯定的な回答をした。今年度の運動会は、観客の人数制限をなくし開催することができた。運動会を短時間で開催するため種目を精選し、色別に分かれた団ごとに応援発表や学年種目、大縄跳びなどを取り入れることで、生徒同士が協力して取り組めたことが一因として考えられる。また、生徒会種目では、教員も参加してパフォー

マンスに加わるなど、生徒・教員の連帯感が感じられた。合唱コンクールは、3月に延期したため、アンケート結果には反映されていないが、実施することでさらに成果指標が上がると思われる。

○豊かな人間性の育成（地域の方との協働活動・関わりの活性化を図る）

生徒学校評価アンケート「地域の方と交流を行い、自分の成長につながった。」という質問に対し、64.9%の生徒が肯定的な回答をした。職場体験や職場訪問の実施や、学校公開を人数制限なしで行ったこと、地域の人材を活用し、命の授業、保護司からの授業などを行った。此のうち救急救命講習や薬物乱用防止教室などを地域人材を活用して実施する予定である。しかし、生徒には地域の方との交流をする機会がなかったと感じている生徒が多くいることが考えられる。来年度は、小中交流会、職場体験の報告会を保護者や地域の方に参加してもらったり、青年会議所の方々に職業についての話を聞いたりして、地域との交流する場が増えるようにしていきたい。

○豊かな人間性の育成（地域の方との協働活動・関わりの活性化を図る・防災、危機管理マニュアル等）

生徒学校評価アンケート「避難訓練などの取組を通して、自助・共助の意識が高まった。」という質問に対し、86.8%の生徒が肯定的な回答をした。今年度の避難訓練においては、指示されたとおりに動く訓練だけではなく、休み時間中などに、状況に応じて各自で判断して動く訓練を多く実施したことが、よい結果になったと考えられる。地域での訓練では小中合同での引き取り訓練を実施したが、地域の方との協働での避難訓練は生徒数も多く実施できていない。中学生が自助の見本となり、共助する小中合同訓練などを行いたい。

○安全・安心の推進（不登校傾向等のある生徒等に対し、個に応じた支援を充実する。）

生徒学校評価アンケート「ステップ教室等や保健室、登校支援教室等の相談など、個別の支援が充実していると感じた。」という質問に対し、80.1%の生徒が肯定的な回答をした。教育相談部会を毎週開催し、不登校傾向にある生徒等について、情報交換、共通理解を図り対応を進めた。対応にあたっては、教員だけでなく、SC、SSWとも連携を図ったことで、生徒が肯定的な回答をしたことにつながったと考えられる。今年度より教室に入りにくい生徒、不登校の生徒に対し校内での居場所をつくること目的として校内別室支援員を配置した。登校支援教室も水、金と2日間に増やし、校内別室指導支援員の他、スクールカウンセラーインターン、ステップ教室の教員なども加わり、学習支援や栽培活動などを行っている。参加者増え、それぞれの成長につながっている。教室に入れるようになった生徒も2,3名おり、効果が表れてきている。来年度は水曜日と金曜日以外にも居場所を増やしていく。

○安全、安心の推進（いじめの防止・早期発見・早期解決を図る。）

生徒学校評価アンケート「先生方は『いじめ』や人間関係のトラブル等、悩みや相談に親身になって応じている。」という質問項目に対し、83.6%の生徒が肯定的な回答をした。これは毎

月生活アンケートを実施し、困っている状況にある生徒に対し、聞き取りや指導を行っていること、生徒相談フォームを開設し、タブレットを使って常時生徒が相談できる環境を設けていることが考えられる。また、本校のいじめや生徒間トラブルの中に、配慮に欠けた発言が多かったことから、今年度は学校全体でソーシャルスキルトレーニングを行った。いじめへの対応はもちろんのことだが、原因を見極め、いじめを減らす取組みを行うことができた。来年度も継続していきたい。

【質疑応答】

- 下田：保護者アンケートの提出数はどの程度なのか？その割合によって結果が左右する面があると考えられる。
- ⇒木村：245名である。およそ3分の1の回答率。提出のお願いを再度送るなど、回答率をあげる工夫が必要だと考える。
- 谷：防災訓練について、避難所での中学生の力は大きい。その中でも顔が分かる仲で行えるときらに良い。地域の方々と連携した訓練ができればと感じる。
- ⇒木村：休日に実施は難しいところがある。平日だと生徒数が多いのが懸念。
- ⇒谷：難しい取組でなくても、例えば学校の訓練に地域の人に参加する、見るだけでも効果はあると思う。できる範囲で進めていけると良いと思う。
- 谷：定期テストを単元テストに変えることについて、日野市教育委員会からの指示などはないのか？
- ⇒須田：テストに関わる市からの指示はない。様々な意見があるかと思うが、子供のためにぶれずに進めていきたい。
- 谷：部活動について、日野市でも地域移行に向けての取組が進んでいるが、地域移行のメリットを感じる点はあるか？
- ⇒須田：正直、地域移行が進んでいると感じることがない。これまでと運営は変わらない状況。やりがいはあるが、保護者からのクレームなど負担もある。卒業生が指導に携わってくれても、外部指導員の費用がない状況。
- ⇒和田：地域移行についての市の方針は、日野スポと日野カルを2年間国の予算で行っていたが地域移行とは別のもので運営されていた。来年度からは国の予算がなくなるところで、次年度以降のことを市が検討している最中である。
- 伊野：小中交流会では、一中生がよく動いてくれて、小学生は満足してみんな一中来たいと言っている。授業を見るだけでなく、遊びを通して中学生と関わることが重要だと考える。今回33回目となるが、50回目指していけるとよい。来年度も協力していただきたい。
- 三浦：学校全体でのソーシャルスキルトレーニングについてどのような取組みが行われたの

か？

⇒佐々木：20分ほどの授業を作成した。1回目はアサーショントレーニングを行い、生徒のアンケートも良い結果だった。アンケート結果から、他者に相談することが苦手であることが分かったため、2回目ではSOSの出し方を工夫する授業を行うこととした。他にも、人によって態度を変えてしまう課題があるようなので、今後も学期に1度程度授業を行いたい。

○池田：不登校の生徒や保護者と関わることもあり、保護者にも悩みを言えないという子供もいる。お母さんが娘が何を考えているか分からない、ということもある。どのように学校に行かせたらよいか、子供の心を開かせるにはどうしたらよいかなど、教員が勉強している研修会に参加する機会があるとよい。

⇒和田：道徳地区公開講座で保護者向けの講演も行っている。PTAの家庭教育学級として企画することもできる。関係機関と連携して不登校生徒に話を聞いてもらうことも行っている。

⇒谷：一小でカウンセラーを行っている学芸大の向井先生が家庭教育で講演を行っていたので、一小でお話を聞くことができる。

○下倉：地域との連携について、谷さん、伊野さんなどが深くかかわっていただいている。次の世代にもつなげていけるようにしていきたい。

○松岡：大規模校である中で、一人ひとりを大切にしたい、丁寧な対応が行えていると感じた。単元テストは、全教科行うのか。

⇒須田：全教科行うが、各単元テストでは必要な教科が行い、各教科学期に1回は行うことにする。

○松岡：テストの改革について、「やって後戻りできない」という発言があったが、「やって失敗だったら戻っても良い」という考えで、生徒のために果敢にチャレンジしていただきたい。アンケート結果については数値のマジックがある。数値が高いとうまくいっている、数値が低いと課題があるが、すべてではない。傾向把握として捉えるとよいと思う。

4 その他

特になし